

外科学第一

1 構成員

	平成16年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助手（うち病院籍）	5人（3人）
医員	6人
研修医	3人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	8人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	1人
技官（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	29人

2 教官の異動状況

数井 暉久（教授）	（H9.3.1～現職）
鈴木 一也（助教授）	（H12.4.1～現職）
川辺 昭浩（講師）	（H15.4.1～現職）
山下 克司（講師）	（H14.1～現職）
餅田 良顯（助手）	（H12.4.1～現職）
和田 英俊（助手）	（H10.7.1～現職）
磯垣 淳（助手）	（H12.12.1～現職）
寺田 仁（助手）	（H13.4.1～現職）
鷺山 直己（助手）	（H13.6.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	16編（4編）
そのインパクトファクターの合計	22.38
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4編（4編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	7編（6編）

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	5編 (2編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Ogura H : Akiyama F, Kasumi F, Kazui T, Sakamoto G. Evaluation of HER-2 status in breast carcinoma by fluorescence in situ hybridization and immunohistochemistry. Breast Cancer. 10 : 234-240, 2003.
2. Bashar AH, Kazui T, Washiyama N, Terada H, Yamashita K, Haque ME : Mechanical properties of various z-stent designs : an endovascular stent-grafting perspective. Artificial Organs. 27 : 714-721, 2003.
3. Kazui T, Yamashita K, Terada H, Washiyama N, Suzuki T, Ohkura K, Suzuki K : Late reoperation for proximal aortic and arch complications after previous composite graft replacement in Marfan patients. Ann Thorac Surg 76 : 1203-1208, 2003.
4. Kobayashi T, Kazui T, Kimura T : Surgical local resection for early gastric cancer. Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 13 : 299-303, 2003.
5. Uenoyama S, Kobayashi T, Takeuchi Y, Yamashita K, Koide Y, Kazui T : Improvement of intestinal motility using S-methylisothiurea in postoperative ileus. Am J Surg 187 : 93-97, 2004.
6. Terada H, Kazui T, Yamashita K, Washiyama N, Suzuki T, Suzuki K, Ohkura K : Surgical experience of full root replacement with freestyle bioprosthesis : indications, surgical technique, and results. Surg Today 34 : 16-20, 2004.
7. 小倉廣之, 秋山太, 霞富士雄, 坂元吾偉 : 術前化学療法を施行した進行乳癌の組織学的効果と予後. 乳癌の臨床 18 : 260-265, 2003
8. 寺田仁, 数井暉久, 山下克司, 鷺山直己, 鈴木一周, 鈴木卓康, 大倉一宏, 鈴木正人 : 脊髄保護に関する集学的アプローチ : 胸腹部大動脈瘤における脊髄虚血予防と手術成績. 胸部外科 57 : 307-312, 2004
9. 鈴木一也, 高持一矢, 船井和仁, 春藤恭昌, 浅野寿利, 数井暉久 : 肺瘻閉鎖及び予防に用いる素材の実験的検討. 医薬の門 43 : 776-779, 2004
10. Kazui T : Invited Commentary on "Coronary malperfusion due to type A aortic dissection : Mechanism and surgical management". Ann Thorac Surg 76 : 1476, 2003
11. Kazui T : Editorial comment : Post-operative neuropsychological function unaffected by SjO2 monitoring in DHCA. Eur J Cardiothoroc Surg 25 : 406-408, 2004
12. 数井暉久, 鈴木一周 : 胸部外科の検討. 「急性大動脈解離 (Stanford A型) 手術症例における大動脈弓分枝異常症例」に対する討論. 胸部外科 56 : 823-824, 2003

インパクトファクターの小計 [9.72]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Di Eusanio M, Schepens MA, Morshuis WJ, Dossche KM, Di Bartolomeo R, Pacini D, Pierangeli A, Kazui T, Ohkura K, Washiyama N : Brain protection using antegrade selective cerebral perfusion : a multicenter study. Ann Thorac Surg 76 : 1181-1189, 2003.
2. Kita Y, Suzuki K, Nogimura H, Takahashi T, Kazui T : CTLA4Ig-gene transfection inhibits obliterative airway disease in rats. Ann Thorac Surg 75 : 1123-1127, 2003.
3. Suzuki K, Aoki A, Ohnami S, Yoshida K, Kazui T, Kato N, Inoue K, Kohra M, Yoshida T : Adenovirus-mediated gene transfer of interferon alpha inhibits hepatitis C virus replication in hepatocytes. Biochem Biophys Res Commun 307 : 814-819, 2003
4. Suzuki K, Aoki A, Ohnami S, Yoshida K, Kazui T, Kato N, Inoue K, Kohra M, Yoshida T : Adenovirus-mediated gene transfer of interferon alpha improves dimethylnitrosamine-induced liver cirrhosis in rat model. Gene Ther 10 : 765-773, 2003

インパクトファクターの小計 [12.66]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kazui T : Spinal cord protection. Kawamura ed. Cardiac Anesthesia, p. 128-134, 2004

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 和田英俊, 数井暉久, 木村泰三 : 【鏡視下手術の適応と限界】 鼠径ヘルニア 外科治療88 : 809-814, 2003.
2. 磯垣淳, 川辺昭浩, 小林利彦, 数井暉久, 川村武, 川村統勇 : 【胃・十二指腸・直腸の局所切除術】 十二指腸乳頭部腫瘍に対する局所切除術 手術 57 : 939-944, 2003.
3. 高持一矢, 永井完治 : PETによる診断 外科療法のためのPET診断. 肺癌の臨床 5 : 379-385, 2003
4. 数井暉久 : 第12回臓器灌流保存研究会巻頭言. 心臓 34 suppl : 17, 2003

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 数井暉久：大動脈解離．積極的全弓部大動脈置換術．田邊達三監修，安田慶秀編集，「エキスパートに学ぶ大動脈瘤手術」メディカルレビュー社． p.167-173, 2003
2. 数井暉久，山下克司，大倉一宏，寺田仁，鷺山直己：広範囲大動脈置換術－1．田邊達三監修，安田慶秀編集，「エキスパートに学ぶ大動脈瘤手術」メディカルレビュー社． p.207-212, 2003
3. 数井暉久：Stentless valve大動脈置換術． B. full root法．心臓弁膜症の外科第2版，新井達太（編）医学書院 p.148-159, 2003
4. 数井暉久，鷺山直己：心臓手術前・術後管理の実際／胸部大動脈疾患．真性瘤（慢性解離や破裂を含めて）．心臓手術．周術期管理の実際．川副浩平，佐野俊二，一色高明編集，Medical View p.242-253, 2003
5. Kazui T.：Redissection of the aortic root after acute type A aortic dissection repair using biologic glue. Disease of the Aorta 2nd Edition, edited by Liotta D et al., p.395-402, University of Morön, 2003
6. 数井暉久：Marfan症候群に合併する大動脈弁逆流－いつごろどのような治療を考えるか－．新心臓病治療プラクティス2．心疾患の手術適応と至適時期．赤阪隆史，吉川純一編 p.80-82, 文光堂 2004
7. 数井暉久，鷺山直己：大動脈解離．心臓ナビゲーター．浅田祐士郎，江頭健輔，甲斐久史，古森公浩，佐田政隆，室原豊明 p.206-209, メディカルレビュー社 2004

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Asai K, Suzuki K, Takahashi T, Ito Y, Kazui T, Kita Y：Pulmonary resection with chest wall removal and reconstruction for invasive pulmonary mucormycosis during antileukemia chemotherapy. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 51：163-166, 2003.
2. Asai K, Suzuki K, Shimota H, Takahashi T, Asano K, Kazui T：Solitary fibrous tumor of the pleura with hemothorax at the thoracic apex. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 51：434-437, 2003.
3. Asai K, Suzuki K, Washiyama N, Terada H, Yamashita K, Kazui T：Combined operation for myasthenia gravis and coronary artery disease. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 52：65-67, 2004.
4. 伊藤靖，高橋毅，鈴木一也，数井暉久：胸膜肺全摘後気管支断端瘻及び膿胸に対して遊離腹

直筋弁と大網を併用して治療した1例 日本呼吸器外科学会雑誌 17：653-656, 2003.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 北雄介，近藤大造，野木村宏，井田雅章，藤井雅人，榎本紀之，鈴木一也，数井暉久：胸腔内慢性進行性血腫の1治験例．胸部外科 56：427-429, 2003.

4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (410万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 (100万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	15件 (838.8万円)

(1) 文部科学省科学研究費

数井暉久（代表者）基盤研究（C）(2)「脳血管疾患，特に脳梗塞の既往を有する症例に対する順行性選択的脳灌流法の確立」190万円（新規）

寺田 仁（代表者）基盤研究（C）(2)「虚血性脊髄障害に対する神経幹細胞移植による脊髄再生」220万円（新規）

(5) 受託研究または共同研究

数井暉久 国立循環器病センター「大動脈疾患のステントグラフトによる治療体系の確立に関する研究（多施設共同研究）」100万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	3件
(2) シンポジウム発表数	1件	10件
(3) 学会座長回数	1件	10件

(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	4件	14件
(6) 一般演題発表数	3件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Kazui T. : Invited lecture : Total arch replacement in patients with aortic dissection. 3rd Vienna Interdisciplinary Symposium on Aortic Repair, Vienna, Austria, 3003.6.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Kazui T.; Symposium [Brain & spinal protection] : Spinal cord protection. International Symposium for Cardiac Anesthesia, Morioka, Japan, 2003.4.

5) 一般発表

口頭発表

1. Kazui T., Di Eusanio M, Schepens M, Morshuis W, Dossche K, Okura K, Washiyama N, Di Bartolomeo R, Pacini D, Pierangeli A. : Separated graft technique and en bloc technique for arch vessels reimplantation during surgery of the aortic arch : A retrospective study. 83rd Annual Meeting of American Association for Thoracic Surgery, 2003.5.
2. Kazui T., Washiyama N., Terada H., Yamashita K. : Total thoracic aortic replacement after Bentall's procedure in Marfan's patient. 16th Annual Meeting of World Society of Cardio-Thoracic Surgeons Japan Chapter, Aso, Kumamoto, Japan, 2003.7.
3. Kazui T. : Discussion to : Technical advances in total arch replacement. presented by Strauch JT, et al., 39th Annual Meeting of the Society of Thoracic Surgeons, San Diego, USA, 2003.1.

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 数井暉久 : 胸腹部大動脈瘤の外科治療 — 脊髄保護について. 日本血管外科学会中国四国地方会第34回総会, 8月, 今治
2. 鈴木一也 : 気胸の術後再発 — 原因と対処の模索 —, 第7回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 9月, 札幌
3. 和田英俊 : 成人鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術. 第39回中部外科学会総会, 9月, 名古屋

3) シンポジウム発表

1. Kazui T. : Debate Symposium : Antegrade vs Retrograde Perfusion in Brain Protection "Which is the preferable technique during aortic arch repairs, SCP or RCP ?" 第34回日本心臓血管外科学会学術総会, 2月, 福岡

2. 寺田仁, 数井暉久, 山下克司, 鷺山直己, 鈴木卓康, 鈴木一周, 大倉一宏, 阿久澤聡: 胸腹部大動脈瘤手術における周術期脊髄虚血予防対策と手術成績, 第33回日本心臓血管外科学会学術総会, 5月, 札幌
3. 鈴木一也, 浅野寿利, 高橋毅, 霜多広, 数井暉久; 低侵襲な標準術式としての腋窩開胸, 第103回日本外科学会総会, 6月, 札幌
4. 寺田仁, 数井暉久, 山下克司, 鷺山直己, 鈴木卓康, 鈴木一周, 大倉一宏: 胸腹部大動脈瘤手術における脊髄虚血予防対策と手術成績, 第103回日本外科学会総会, 6月, 札幌
5. 山下克司, 数井暉久, 寺田仁, 鷺山直己, 鈴木卓康, 鈴木一周, 大倉一宏, 阿久澤聡: 胸骨正中切開下大動脈基部または上行~弓部大動脈病変に対する再手術症例の検討, 第103回日本外科学会総会, 6月, 札幌
6. 寺田仁, 数井暉久, 山下克司, 鷺山直己, 鈴木卓康, 鈴木一周, 大倉一宏, 阿久澤聡: 大動脈弁膜症に対する大動脈基部置換術の適応と治療戦略, 第46回関西胸部外科学会学術総会, 6月, 京都
7. 鷺山直己, 数井暉久, 山下克司, 寺田仁, 鈴木卓康, 鈴木一周, 大倉一宏, 阿久澤聡: 弓部大動脈手術における脳合併症の予防策, 第46回関西胸部外科学会学術総会, 6月, 京都
8. 霜多広, 高橋毅, 浅野寿利, 磯垣淳, 和田英俊, 常泉道子, 鈴木一也, 数井暉久, 佐々木豊, 峯田周幸: 縦隔気管孔を作成し切除し得た悪性腫瘍に対する手術治療経験, 第28回日本外科系連合学会学術集会, 6月, 東京
9. 鷺山直己, 数井暉久, 山下克司, 寺田仁, 鈴木卓康, 鈴木一周, 大倉一宏: 冠動脈疾患を合併した胸部, 胸腹部大動脈瘤の外科治療, 第56回日本胸部外科学会総会, 11月, 東京
10. 鈴木一也, 霜多広, 春藤恭昌, 浅野寿利, 数井暉久: 局所進行肺癌に対する集学的治療—灌流による胸腔内温熱化学療法—, 第56回日本胸部外科学会総会, 11月, 東京

4) 座長をした学会名

数井暉久: 第103回日本外科学会総会
 数井暉久: 第56回日本胸部外科学会総会
 数井暉久: 第34回日本心臓血管外科学会総会
 数井暉久: 第31回日本血管外科学会総会
 数井暉久: 第46回関西胸部外科学会
 数井暉久: 第44回日本脈管学会総会
 数井暉久: 第16回国際心臓胸部外科学会
 鈴木一也: 第44回日本肺癌学会総会
 鈴木一也: 第266回東海外科学会総会
 川辺昭浩: 第16回日本内視鏡外科学会
 和田英俊: 第16回日本内視鏡外科学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

数井暉久: Association of Thoracic & Cardiovascular Surgeons of Asia; Council member

数井暉久：Aortic Surgery Symposium, The Mount Sinai Medical Center, N. Y.; Faculty member

数井暉久：Vienna Interdisciplinary Symposium on Aortic Repair; Faculty member

数井暉久：日本外科学会 評議員

数井暉久：日本胸部外科学会 評議員

数井暉久：日本心臓血管外科学会 理事

数井暉久：日本血管外科学会 理事

数井暉久：日本冠動脈外科学会 評議員

数井暉久：関西胸部外科学会 理事

数井暉久：日本脈管学会 評議員

数井暉久：日本外科系連合学会 評議員

数井暉久：国際心臓胸部外科学会日本支部会; Board member

鈴木一也 日本呼吸器外科学会 評議員

鈴木一也 日本呼吸器学会 評議員

鈴木一也 日本内視鏡外科学会 評議員

鈴木一也 日本気胸学会 評議員

鈴木一也 日本肺癌学会 評議員

川辺昭浩：日本内視鏡外科学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	2件	1件

(1) 国内の英文雑誌の編集

数井暉久：日本血管外科学会雑誌，編集委員

数井暉久：Japanese Journal of Thoracic & Cardiovascular Surgery, Advisory Editorial Board

(2) 外国の学術雑誌の編集

数井暉久：Annals of Thoracic & Cardiovascular Surgery, Editorial Board

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

数井暉久：Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery（米国）8回

数井暉久：Annals of Thoracic Surgery（米国）7回

9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	2件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

数井暉久：脳保護についての研究，胸部大動脈瘤手術についての研究，オランダ，St Antonius 病院，イタリア，ポローニャ大学

1. Di Eusanio M, Schepens MA, Morshuis WJ, Dossche KM, Di Bartolomeo R, Pacini D, Pierangeli A, Kazui T, Ohkura K, Washiyama N : Brain protection using antegrade selective cerebral perfusion : a multicenter study. Ann Thorac Surg 76 : 1181-1189, 2003
2. Kazui T, Di Eusanio M, Schepens M, Morshuis W, Dossche K, Okura K, Washiyama N, Di Bartolomeo R, Pacini D, Pierangeli A. : Separated graft technique and en bloc technique for arch vessels reimplantation during surgery of the aortic arch : A retrospective study. 83rd Annual Meeting of American Association for Thoracic Surgery, 2003. 5.

(2) 国内共同研究

鈴木一也：開胸手術が術者に与えるストレスの評価

10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	1件

1. 鈴木一也：誤嚥防止用ダブルバルーンカテーテルの開発

11 受賞

(2) 外国からの授与

Kazui T : Visiting Professor & Opponent of Ph D degree ceremony, Department of Cardio-Thoracic Surgery, University of Utrecht, Netherlands

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. (心臓血管グループ)

胸部大動脈瘤手術後の脳循環不全と脊髄神経麻痺は極めて重篤な合併症である。その原因を究明し臨床における発症頻度を軽減させる目的で基礎的研究を行ってきた。さらに最近では、虚血性脊髄障害モデルに対して神経幹細胞移植を行い、神経細胞再生の可能性を研究している。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. 数井暉久：腹部大動脈瘤の診断と治療。テレビ番組「話題の医学」日本医師会生涯教育課企画，2003.4.27